

イエスのことば 第16回

イエスは彼に言われた。「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」すると、すぐにその人は治って、床を取り上げて歩き出した。ところが、その日は安息日であった。(ヨハ5:8~9)

□イエスの公生涯の起承転結

起：受洗から、メシア宣言(紀元27年の春、過越の祭り)を経て、宣教開始まで

承：メシアとしての権威を現わす。しかし結果的に、指導者層の拒否を受ける

転：弟子訓練

結：エルサレム入城から十字架(紀元30年の春、過越の祭り)、復活、昇天

□文脈の確認

1. 「承」の部に入っている。イエスが幾つもの出来事を通してメシアとしての権威を現わした時期である。
2. これまでに9つの権威を見てきた。
 - (1) 病の癒しに関する権威。カナでの「遠距離かつ即時」の病の癒しであった。
 - (2) 教えに関する権威。ルカ4:32は記す、「人々はその教えに驚いた。そのことばに権威があったからである」
 - (3) 悪霊に対する権威。イエスが人に憑いていた悪霊を叱って、一言「この人から出て行け」と命じただけで、悪霊は出て行った。
 - (4) 病気に対する権威。シモン・ペテロの義母を慢性的な熱病から瞬時に解放した。
 - (5) 自然界に対する権威。昼間に網を下ろさせて大漁。ペテロたち5人の弟子がパートタイムの弟子からフルタイムの弟子へ。6番目の弟子としてヤコブが加わる。
 - (6) 律法上の汚れに対する権威。ツァラアト患者の清めがなされた。ユダヤ議会が、イエスはメシアである可能性ありと見て、公式調査に入った。
 - (7) 罪の赦しにおける権威。中風の人に、神の立場から罪の赦しを宣言したうえで、病気を癒した。公式調査(観察・審問・判定)は観察段階から審問段階へ。
 - (8) 人に対する権威。取税人レビ(マタイ)を7番目の弟子として加え、レビの家でのもてなしを受けて、取税人仲間や遊女と一緒に宴会の席に着いた。調査団からの非難に対して、「わたしは罪人を招いて悔い改めさせるために来た」と言われた。
 - (9) 人の伝統に対する権威。調査団から断食の伝統に従わないことについて質問され、メシアが来ている今は喜ぶべき時であり、断食する時ではないと答えた。また、ユダヤ教パリサイ派の伝統「言い伝え」について、イエスは、「古い衣・古い皮袋」のたとえ話を通して、メシアが提供するものとは関係がないと明言した。パリサイ派が抱いていた、「言い伝え」の完成者としてのメシア像を覆すものであった。
3. 今回から10番目の権威、安息日に対するメシアの権威が示された出来事を扱う。

□本日のアウトライン

- A) 安息日について
- B) 中風患者の癒し (ヨハ 5 : 1~9)
- C) その人の霊的癒し (ヨハ 5 : 10~16)
- D) イエスに対する告発 (ヨハ 5 : 16~18)
- E) イエスの神性についての弁明 (ヨハ 5 : 19~29)
- F) イエスの証人 (ヨハ 5 : 30~47)

A) 安息日について

(1) モーセの律法

出 20 : 8~10 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。

- ① 「いかなる仕事もしてはならない」と命令している。この命令の目的は、奴隷から解放され自由の民となったイスラエル民族に、そのしるしとして休みの日を与えることである。奴隷には休みはない。
- ② 「聖なるものとせよ」とは、他の日とは区別せよ、という意味。礼拝しなさい、ではない。安息日は、休む日である。
- ③ 安息日の精神は、奴隷から解放され、自由とされたことを喜ぶことである。

(2) ユダヤ教パリサイ派

- ① モーセの律法、613の規定を、完全に守るにはどうしたらよいか
 - 規定の優先順位を評価する
 - 社会的倫理的規定と儀式規定とに大別し、安息日はその両方にまたがる最も重要な規定と位置付ける
 - 613の規定ひとつひとつに、具体的細則を設けて、それを守るようにする
- ② その結果、安息日に関する細則だけで、1500もの細則を生み出した。
- ③ そして、安息日の重要性を強調して、次のように教えた。
 - 安息日を守るなら、その他のすべての律法を守ったことになる。安息日を破るなら、その他のすべての律法を破ったことになる。
 - もしすべてのユダヤ人が、1日でも完全に安息日を守るなら、メシアが来る。

B) 中風患者の癒し (ヨハ 5:1~9)

(1) 1節 「ユダヤ人の祭り」

- ① 旧約聖書のモーセの律法が定める祭りは7つ、加えて冬の祭り「宮きよめの祭り」があった。特にどの祭りと言わずに、単に「祭り」と言うときは、春の過越の祭りを指す。
- ② 紀元28年の春である。公生涯開始から1年半。前年の祭りでメシア宣言してからは1年、この間、イエスは主にガリラヤ地方で宣教活動をしてきた。国の内外からイエスに対する注目は高まっていた。
- ③ ユダヤ議会は、イエスがメシアであるかどうか、公式調査をしていた。よって、イエスの周囲には通常は、弟子たちや民衆だけでなく、調査団もいた。
- ④ 1~9節での癒しの奇跡が行われたときには、イエスの周りに調査団はいなかった。おそらく、過越の祭りを守るために調査活動はいったん休止していたのであろう。
- ⑤ イエスも過越の祭りを守るため、ガリラヤ地方からエルサレムに上った。

(2) 2~9節 イエスは、町の中にあるベテスダの池で、ある男に近づいた。

- ① イエスはその男を探し出した。その男は自分で動いてイエスのところに行くことは不可能であったし、誰かがその男をイエスのもとに連れてきたわけではない。イエス自ら、その中風患者に目をとめ、彼のところに近づいた。
- ② イエスは、その男がイエスをメシアであると信じているか、あるいはイエスなら自分の病気を癒やすことができると信じているか、といった信仰の条件を全くその男に求めなかった。イエスの公生涯の中で、この時点はまだ、奇跡を行うときにそれを受ける人に信仰を条件とすることはなかった。なぜなら、イエスが奇跡を行う目的は、ご自身がメシアであることを証明し、それをもって人々がメシアを信じるようになること、だったからである。
- ③ イエスは、ここでは、ご自身がメシアであることも、ご自分がだれであるかも、知らせなかった (→13節)
- ④ イエスは、その男に、ただ単に「良くなりたいか」とだけ尋ねた。そして男がそのように答えると、イエスは言った。「起きて床を取り上げ、歩きなさい」。すると、すぐにその人は治った。

(3) その男は、安息日に関する言い伝えに違反した

- ① その男はイエスの命令に従って、床を取り上げて歩き出した。
- ② ところが、その日は安息日であった。このとき、その男は、安息日に関する言い伝えを破ったことになる。どういう言い伝えかというと・・・
 - 安息日には、公の場から個人の場へ、あるいは個人の場から公の場へ、物を動かしてはならない。

C) その人の靈的癒し (ヨハ 5 : 10~16)

- (1) 癒やされた男が、安息日に床を取り上げて歩きだした。これは、ユダヤ教の言い伝えでは、安息日に関する規則に違反することである。10 節、周囲にいたユダヤ人がすぐに気づいて、その男をとがめた。「今日は、安息日だ。床を取り上げることは許されていない」。
- (2) 男は弁解した。11 節、自分は、治してくれた人のことばに従っただけだ。
- (3) ユダヤ教の指導者たちは、尋ねた。12 節、「取り上げて歩け」とあなたに言った人はだれなのか。
- (4) 13 節 男は答えることができなかった。誰が自分を癒やしてくれたのか、知らなかったからである。
- (5) 14 節 この後、再び、イエスの方から、その男を見つけ、彼に声をかけた。場所は神殿であった。おそらく男は癒された感謝を神にささげ、神殿での儀式に参加しようとしていたのであろう。イエスは彼に言った。「見なさい。あなたは良くなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないと、もっと悪いことがあなたに起こるかもしれない。」
 - イエスのこのことばは、彼が靈的に癒されたこと＝靈的に救われたことを示している。
- (6) この時点で、彼は自分を癒やしてくれたのはイエスであったことを知った。そして、15 節、そのことを他の人に知らせた。これは密告したというわけではないであろう。ただし、聞いた側の人たちは、16 節、イエス自身が安息日を破ったとして、イエスを迫害し始めた。

D) イエスに対する告発 (ヨハ 5 : 16~18)

- (1) 16 節 ベテスダの池での癒しの出来事は、イエスに対する告発を招いた。
 - ① 告発理由は、「安息日にそのようなことをした」
 - ② イエスは、モーセの律法に関する安息日の規定を破ったのではなく、ユダヤ教パリサイ派が定めた、1500 にものぼる安息日に関する規則のひとつに抵触したのであった。
 - ③ その規則とは、【安息日には、命に危険がない限り、病人を癒やしてはならない】というものであった。
- (2) 17 節 この告発に対し、イエスは次のように答えた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」
 - ① 天地万物をお造りになった神は、一日として休むことなく、天地万物を支え、動かしておられる。安息日であっても、である。イエスはそのことを「神は今に至るまで働いておられる」と言った。
 - ② このイエスのことばは、モーセの律法を解釈し適用する權威がご自分にある

ことを宣言するものである。ここでは、とくに安息日に対するメシアの權威を示している。

- ③ さらにイエスは、下線部「わたしの父は・・・わたしは・・・」をもって、自分が父なる神と同等の者であることを言明した。
- 当時、ユダヤ人たちも神を「父」と表現することはあった。ただし、それは「私たちの父」という前提であった。
 - イエスは「わたしの父」と呼び、「わたしの父は働き、わたしも働く」と言われた。これは、自分が父の長子であることを宣言するもの。
 - ユダヤ人にとって、父親と長子とは同等の存在である。
 - イエスのことばは、自分を神と同等の者であると宣言したものである。

- (3) 18 節 イエスの反論を聞いたユダヤ人指導者たちは、イエスの意図を正確に理解した。その結果、「ユダヤ人たちはますますイエスを殺そうとした」。イエスに対する裁判は、安息日に関する言い伝えを破った問題から、自分を神と同等の者としているという冒瀆罪へと発展した。

E) イエスの神性についての弁明 (ヨハ 5 : 19~29) 4つの点

(1) イエスの弁明 4つの点

- ① 19~21 節 イエスは 死人をよみがえらせ、与えたいと思う者にいのちを与える。これは神のわざである。よって、イエスは、神である。
- ② 22~23 節 イエスは、すべてのさばきを委ねられている。さばきは神がすることである (詩 9 : 7~8)。よって、イエスは神である。
- ③ 24 節 イエスは、イエスを信じる者に永遠のいのちを与える。永遠のいのちを与えることのできる方は神である (ダニ 12 : 1~3)。よって、イエスは神である。
- ④ 25~29 節 イエスは、死者たちのよみがえりを起こす。それは神がすることである (イザヤ 26 : 19、ダニ 12 : 2、ホセア 13 : 14)。よって、イエスは神である。
- 25 節「神の子」・・・イエスの神性を示す
 - 27 節「人の子」・・・イエスの人性を示すだけでなく、メシアの称号でもある (ダニ 7 : 13)。

(2) ユダヤ教パリサイ派の言い伝えと彼らの内心

- ① ユダヤ教パリサイ派の言い伝えの中に、次のような 1 節があった「もしイスラエルが神の民としてふさわしくふるまっているなら、メシアは天から雲に乗って来られる。そうでないなら、メシアは、みすぼらしく、ろばの子に乗ってやって来る」
- ② 彼らの内心・・・ナザレから出てきた大工の息子が本当にメシアなら、自分

私たちは神の民としてふさわしくないのか、そんなはずはない。

(3) 2つのよみがえり

- ① いのちを受けるよみがえり・・・黙示録 20:5 では「第一の復活」(黙 20:6) と呼ばれる。
- ② さばきを受けるためのよみがえり・・・この「さばき」とは、黙示録 20:11 ~15、「大きな白い御座」での裁き。いわゆる最後の審判。人々は、永遠のからだを受け取るも、永遠の滅びの場所である「火の池」に投げ込まれる。これは「第二の死」と呼ばれる。

F) イエスの証人 (ヨハ 5:30~47)

- (1) 30 節「わたしを遣わされた方」・・・イエスは、自分が父なる神から遣わされたことについて語る。当時の理解では、遣わされた者は、遣わした者と同等の権限を持つ。イエスは、自分を神と同等の者であると言ったのである。
- (2) 31~32 節 モーセの律法では、本人が言うだけでは真実とは認められない。2人または3人の証人を必要とする。イエスは、その要件を上回る数の証人を、以下、33 節から 47 節において、立てる。
- (3) イエスの証人=4組の証人
 - ① 33~35 節 バプテスマのヨハネ (ヨハネ 1:6~8、15、19~34)
 - このとき、ヨハネは、ユダヤ人指導者たちに向けて証言した。1:19「ユダヤ人たちが祭司たちとレビ人たちをエルサレムから遣わして」、1:24「彼らはパリサイ人から遣わされて来ていた」
 - ② 36 節 イエスが行っているわざ・・・これまでイエスはメシアとしての権威を現わす中で多くの奇跡を行った。これらはすべて公開の場で行われ、多くの人々がそれを目撃している。調査団もその目撃者たちの中にいる。イエスの賛同者だけでなく、冷静に見極めようとしていた人たちも含まれる。
 - ③ 37~38 節 父なる神・・・イエスが洗礼を受けたときに天から響いた神の声
 - この裁判に集まっているユダヤ人指導者たち自身は、直接、バプテスマのヨハネの証言や、天からの神の声を聞いたわけではない。彼らは、そのようなことがあったことの報告は受けていたが、それを信じようとはしなかった。
 - ④ 39~47 節 聖書 (旧約聖書、とくにモーセ五書)・・・モーセをはじめとする旧約の預言者たちが証人である。

(まとめ) 本日のイエスのことば、「起きて床を取り上げ、歩きなさい。」は、単に病気の癒しではなく、安息日に対するメシアの権威を示すためにこれを行う、というイエスの明確な意図の中で発せられたことばである。